

奨学金問題改善に向けたアピール

今や大学生の 2 人に 1 人が何らかの「奨学金」を利用しています。在学中の学費や生活のために利用し、卒業時には数百万円の借金を背負って社会に出ていく異常な事態です。高卒求人は激減し、大学の学費は高騰し続け、家計収入は減少の一途を辿っている中では、奨学金を「借りざるを得ない」のです。もはや学費は自己負担だけでまかなえない状況と言えます。

わが国の奨学金制度は、そのほとんどが「貸与型奨学金」であり、「有利子奨学金」利用者が全体の 3 分の 2 を超えています。OECD 加盟国のうち、大学の授業料が有償で「給付型奨学金」がないのは日本のみという、極めて特異な存在です。また、雇用の劣化が急速に進み、不安定雇用や低賃金労働が拡大している今日、奨学金を「返したくても返せない」のは社会的構造の問題なのです。

「貸与型奨学金」の返済に苦しむ若者は、元本の返済のみならず、「利息」や「延滞金」でも重い負担を背負わされており、今や延滞者数は約 33 万人にも及んでいます。教育を受けるための奨学金が「利息」や「延滞金」で若者を苦しめているのです。家庭の経済状況等で子どもの教育環境が大きく左右される不条理な状況が続けば、結婚や出産にも影響がおよび、格差・貧困の連鎖にとどまらず、少子化・人口減少を加速させかねません。「学び」と引き換えに「奨学金」という名の借金を背負うことで、人生設計を狂わせかねない構造をこのまま放置するわけにはいきません。

私たちは、未来を担う若者のため、持続可能な社会のため、奨学金制度の改善を強く求めます。世代を超え、社会全体で若者を支えるため、この問題に取り組むべきであると訴えます。貸与制から給付制へ本来の奨学金を！貸与制の奨学金は利息・延滞金のないものを！大学等の学費の引き下げや授業料減免の拡充を！これ以上若者を苦しめてはなりません。

今こそ若者の未来のために立ち上がりましょう！借金ではなく、若者が夢と希望を持てる奨学金にするために！

2015 年 10 月 2 日

労働者福祉中央協議会（中央労福協）

若者の雇用と奨学金制度の改善に向けてのキックオフ集会